

砂栽培の可能性

「シェアリング」、「地域」、「共同研究」、「障がい者」をテーマに農業の可能性について

概要

ATR様敷地内にあるトレファームラボは、トレファーム事業の実証の場として「シェアリング農業の実践」、「地域のさまざまな学校や団体との協業」、「大学や企業との共同研究」、「障がい者の就労」をテーマとし、かつ地域に開かれた農園として運営してきました。これまでの活動総括と、今後広がる農業の可能性をご紹介します。

特徴

■ シェアリング農業の実践

2017年にATR様と協働で開始したプロジェクトが進化し、より地域の方に利用される施設として市民農園と農福連携の長所を掛け合わせた仕組みです。

■ 大学や企業との共同研究

東京農業大学、大阪公立大学、日本郵便様とともに研究を重ねています。成果として、フルーツマトが日本郵便様から「さやまる」ブランドで販売されています。

■ 障がい者の就労

全国で多数の福祉施設にご導入にいただいております。様々な障がいをお持ちの方が活躍できる場として有効性が実証されています。

今後の展開

- 地域住民の方を始めとして、地元のNPO法人（プラッツ様他）、地域の支援学校（南山城支援学校他）の生徒さんにも参加いただき、開かれた農園として運営しています。今後も更に新たな農業の可能性を追求していきます。

テーマ「万博、そしてその先へ ～科学技術が描く未来～」との関連

- 砂栽培は農作物を育てる作業をシェアすることで、老若男女を問わず障がいのある方も農業初心者の方も、笑顔をシェアできる農園です。IoTの活用を通じて作業負担を軽減して、ウェルビーイングの実現を目指してまいります。



（支援学校の体験学習）

（フルーツマト）

（シェアリング・ファーム）

（障がい者就労）

砂栽培の可能性

農業+αの事業展開について

概要

ATR様敷地内にあるトレファームラボは、トレファーム事業の実証の場であり地域に開かれた農園として運営してきました。これまでの活動から新たな農業の可能性、農業+αの事業展開のヒントを得て実施中のプロジェクトをご紹介します。いずれも農業関係にとどまらず、地方自治体、学校・福祉関係、経済界等の多方面から大きな期待を受けています。

特徴

■ KOSUGI iHUG (神奈川県川崎市)

川崎市の武蔵小杉の市・遊休地を活用するプロジェクトで、昨年3月に営業を開始しました。ファーム棟、アウトドアダイニング棟、ウェルネスリビング棟、芝生広場で構成されます。シェアリング農業を実践し、人気の複合施設となっています。

■ 田辺公園拡張整備事業・タナクロ(京田辺市)

田辺公園を拡張する「緑と農に親しむ区域」の公募施設設置と指定管理を東レ建設グループが行い、2025年3月にオープンします。障がい者の方も活躍する公園として農業施設を中心に直売所やカフェ、カルチャー教室などを計画しています。

今後の展開

- 本年10月に仙台市(宮城県)でSOMPOケア(介護付きホーム)とトレファームが連携します、「いろどりふぁーむ」がオープンします。このように、農業+αの取り組みを全国各地に広める活動を行なってまいります。

開催期間中: 11:00、13:00、15:00

ATR様敷地内のトレファーム農園の見学会を行なっております。

是非、お越しになってご覧ください。

見学ご希望の方はスタッフにお申し付けください。

(KOSUGI iHUG)



(田辺公園拡張整備事業: タナクロ)

連絡先: 東レ建設(株)トレファーム事業推進室 藤本 勉 e-mail: tsutomu.fujimoto.a3@mail.toray